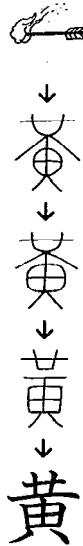


黄

二年 筆順 一ササキ 芦原 黄
画数 11
オノコウ・オウ
ウンキ・コ

成り立ち



火をつけてとばす “や（火や）” のかたちをあらわした字です。 “きいろ” い光を出してとぶので、 “黄色” といふう音なのです。

オウは吳音で、 “オウゴン” など、ふるいことばのよみかたにつかれます。

“木” が、 “木陰” とよまれるように、 “黄” という字も “黄金” のようにじゅくごのときには “こ” とよまれます。

それで “光” と “黄” の音は、どちらも “コウ” という音なのです。

合

二年 画数 6
筆順 ノ入△合
オノゴウ・ガツ・カツ
クシ あリう・わす・わせる



成り立ち

うつわの “ふた” と “み” を組み合わせた字です。うつわの “ふた” と “み” とは、ぴったりと “あう” ようにつくられています。それで、 “あう” “あわせる” “あわす” といふみをあらわしました。

〔説文では、 “人” と “口” との会意字であると解かれている。 “人” は、 “人” で、人や物の多いことを符号的に表したもので、衆（亾）や集（饗）と同じ構成で同義である。したがって、衆人の口が一つに “あう” ことを表したものと解くのである。この解は “会” や “命” などの理解につながる便があるので、 “合” の場合は、容器の蓋と身と見た方が解りやすい。〕

「黄金の雨だね」とおばあさんがいつたので、ほんとうに黄金色の雨かとおもつてそとに出て見ましたが、ふつうの雨でした。黄金の雨とは、日でりつづきにふる雨のことというのだそうです。黄金ほどのねうちがあるからです。

使い方

二三六

熱語例

▽ 黄金 (金のこと。また、 “お金” のいみにもつかれます。 “黄金” ともいいます。)

▽ 黄身 (卵の中身の黄色いところのこと。 “白身” にたいすることばです。 “卵黄” ともいいます。)

▽ 卵黄 (卵の黄身のことです。自身のことは “卵白” といいます。)

▽ 黄疸 (からだが黄色くなる病気です。)

▽ 黄鳥 (うぐいすのことです。)

▽ 黄昏 (夕ぐれのことです。 ↓たそがれ)

▽ 黄泉 (地下の泉) ということで、「しんだ人のいくところ」のことといいます。)

▽ 黄色人種 (はだの色が黄色い人種。といふことがあります。)

▽ 黄色人種 (はだの色が黄色い人種。といふことがあります。)

使い方

二三七

▽ お正月に、かぞく合わせのゲームをしました。おなじ

かぞくのカードを合わせて、ひとつのかぞくが、みんなそろつたら、かちです。わたしは、十かいやつて三

かい、かちました。おにいやんは、四かい、かちました。かぞく合わせは、とてもおもしろいゲームです。にんぎよ

うに、よく合うふくをえらぶのが、とてもたのしいのです。 「これが合うかな、あれのほうが、もつと合うから」と、なんかいも、させかえます。

熱語例

▽ 合意 (意見が合うこと。「りょうはうの合意にもとづいて、じぎょうをおこなうこととする」などといいます。)

すこし、かたくるしい、いいかたです。)

▽ 集合 (一かしょに、集まること。「九時に、きょうしつに集合してください」などといいます。)

▽ 合唱 (こゑを合わせて、うたうこと。「みんなで、『ほたるのひかり』を合唱しました」など)

二三七